



夜、雨のなか、逃げると言
われてどこへ逃げるか？



大島町の大規模土石流は、いわば山からの津波。下流にある人家を一巻みにしてしまった。直接の引き金は未曾有の集中豪雨ではあつたろうが、大雨をもたらす台風の進路予報は、近年とみに正確さを増しているのも事実。そしてそれらに事前に対処するいとまは海からの大津波の比ではないほど余裕があるはずである。

天気予報は当たるも外れも八卦などとかかわれた昔日の面影はないほど、予想通りにこと

が運ぶようになった。大島町の悲惨な人的被害は、住民の安全を守るために行政当局が機能しなかつたことをもつて人災といふ意見も、これから厳しくなるだろう。

記憶に新しい伊豆大島における台風26号の集中豪雨による甚大な土石流災害(25年10月16日)は、島の成り立ちこそ違え「島である我が家に、これから取り組むべき大きな課題を突きつけたのではないかと思える。

▲弓削島の中心街遠望。経験したこのない未曾有の大暴雨だと怖いかも。

伊豆大島台風災害から学ぶ

安心な避難所はどこだ？

●逃げ隠れる場が無い現実

嵐が到着する前にどう動くか、到着後にどう動くかは、後知恵で言うほど簡単ではない。様々な評論は専門家にまかせるとして、大島の災害ニュースに接して、ではわれわれが似たような状況におかれただきどうなるのか？それを想像してみると、実は我々には殆ど逃げ隠れる場が無いのではないか？

歴史上例のない豪雨が予想されれば、砂礫で出来た石灰山が崩壊するおそれだってなきにしもある。そうなれば下流の下流地区の人々はどうすればよいのか。

運良く事前に避難勧告が出せたとして、降りしきる豪雨の中、どこへ逃げざるを得ないとき、どこへ？、どう？ 実はわれわれには殆どなんの準備も出来ていないのが実状で

はなかろうか。●余裕ある時にこそ始めよ

ひとくちに避難勧告といったところで避難できる場所は殆ど用意されていない現実に加え、自主的避難も、その判断もふく

さとぐち 四二

青木喜代子

数年前から東南アジアより研修生として多くの若者が島内

の企業で働いている。先日、大型台風接近の夜、大雨の中をタ

イからの若者がウイスキーを買いに来た。ぬれた手で千円余りの代金を十円玉、五円玉で支払ってくれた。

「ごめんなさい。スミマセン」と片言の日本語で悪そうにする彼を責めることは出来なかつた。彼はふざけてはいないのか。

四十五年前、高校生の私は確かにふざけていた。当時授業料

は月末に担任から集金袋が渡され、諸々経費と共に翌月十日までに校内の事務局に届ける。というのどかなシステムだった。先の還暦同窓会でこの事を話すと、よく覚えているなど感心された。で、その袋に家中の十円玉、一円玉を集め、一千四百二十円也。ずつしりと重い。事務局ボストン投入した瞬間、袋が破裂しないかと、気持ちそろりと

テヘッ 鯨のフライ あの口のおかずは

は二度とふざけないよう！」と、明治生まれのおばあちゃんが硬貨ばかりなのか！ 数える側の身にもなりなさい！」と、明治生まれのおばあちゃんが泣くと言っていたのを思い出したけど、その日の弁当のおかずは、大好きなクジラのフライだった事はしつかり覚えていた。涙ながらお小言を聞いていた。

「二度とふざけないよう！」ときつく注意され退室。その時素直に「はい！」と言ったか忘れたけど、その日の弁当のおかずは、大好きなクジラのフライだった事はしつかり覚えていた。



やよみ亭
【映画研究会】
11月15日(金)
夜7時～ 無料
「ドクター・ノー」

コネリーが演じた初の作品。日本初公開当時の『007は殺しの番号』の題名で大ヒットした。

監督・テレンス・ヤング (1962年作品)

主演・ショーン・コネリー

★ どなたでも覗きにどうぞ

やよみ亭からのお知らせ
(0897-72-9188)

★出よう会 每月第2、第3火曜日
午後1時から3時頃まで
・活動趣旨：家に籠もららない為の地区のお年寄り達の交流会
・実施場所：第2火曜日(やよみ亭)
第3火曜日(土生集会所)
・12月は10日(やよみ亭)と17日(土生集会所)です。
お気軽にご参加下さい。



「陸前高田市ゆめプロジェクト」

読み終わった本を送って、被災地陸前高田市に図書館を創ろう！

東日本大震災から2年余り。復興支援に協力したいけど、何をすればいいのかわからない方へ。本を送って図書館再建を応援してみませんか？

みなさんが読み終えた不要な書籍を送ることで、その本が古本業者に価格査定を経て買い取られ、買取金額相当分が、陸前高田市に寄付され、そのまま図書館再建の費用として役立てられるという復興プロジェクトです。

情報をインターネットで検索するには <http://books-rikuzen.jp/>

申し込み書等詳細は弓削通信まで
08977-3072または090-8247-5279

こんにちは町長さん

広報誌の使い方に疑問あり

★コラム「こんにちは町長です」
その記事の中で町長は、上島町議会議員選挙区に閲し次のように書いています。

筆者はむろん町長。
ました。『こんにちは町長です』

平成二十五年十一月の町広報
誌に不思議なコラム記事があり
ました。『こんにちは町長です』

筆者はむろん町長。

その記事の中で町長は、上島

町議会議員選挙区に閲し次によ

うに書いています。

選挙戦には公約を掲げそれを
含めて信任をいただきました。

その中に「合併協定書にある選

挙区の実現」があります。合併

協定書には設置選挙に限り旧町

村の区域内に1選挙区を設ける。

ただし設置選挙以降の選挙にお

いて魚島村の議員1名を確保で

きる方法について別途考慮する」

と書かれています。これは正に

合併時における約束事であり契

約書もあります。(中略)私は

は最低限守らねばならないのは

まずこの約束をはたすことであ

り、約束を実行した上で不都合

があれば再度協議すればよく、

最初から契約を守らないのは信

義上やるされる事ではありません。

(中略)みんな、子供が

見ています。大人として約束を

守るべきではありませんか。

知らない人が読めばまるで議員

がこのことに関し合併協定を未

だに守ってなく、しかも最初か

ら守っていないかのような書き

ようです。結論からいえばこれは間違つ

た認識です。町行政を預かる最

高責任者が広報誌上で町民に誤

解を与える記述をするのは、そ

れこそ信義上許されないことで

はなかろうか。

★合併後協定を守り続けた事実

読者ご承知のように、平成十

このように合併後今日まで魚島には選挙区を設け議員確保を行ってきた事実は、最初から約束を実行していることにばかりません。最初から契約を守つておらずなどどうして言えるのでしょうか。

★議員はどうあるべきか
町は合併後も人口減と高齢化に歯止めをかける有効な施策を打ち出せず、それを打破するためにも議会改革が求められ、法の原則である一つの町、一つの選挙区という姿に戻し、町全体を視野に入れて活動する議員の参入をうながす体制を整えるのが急務となつているのが現状です。そのような背景があつて次に一般選挙からは全町一区にするべきとの認識の議員が多数派となりつつあります。

我が町は全域に光ケーブルが展張され議会中継もCATVで居ながらに視聴できます。そこ

ところが合併協議会の中で魚島村がそのような合併条件を出したという記録はなく、そういうふうにかかつた条件を、故郷の末永い繁栄を願つて合併の道を選んだ旧村の指導者が出すはずもない。

合併協議会での魚島代表の発言は、設置選挙では議員確保が出来るように配慮してほしいという要請でした。選挙というのは公平性が基本。いかに離島だとしても合併するからには議員確保の保障などできる筈がない、その道理を当時の代表者がわかつていないのである。

あります。全町一区選挙にな

つても当選する可能性の高い議員の養成が可能だつたのです。

もうひとつ面妖なことに町長は、当時黒字財政であった魚島村が合併に参加したのは「議員の確保が保障されているからこそ合併に同意」したなどと書いていることです。

尾道しまなみ映画 100才の詩人 柴田トヨの実話
主演：八千草薫
人生は、いつだってこれから。



くじけないで
11月27日(水)・11月28日(木)
①10:30~ ②13:30~ ③18:00~
しまなみ交流館 特別映画鑑賞券 1,000円
尾道・しまなみ交流館 (0848-25-4073)

町の健全発展のために 刷新と議会の改革が必要

での議員の言動も見えて来ます。

議員選挙で候補者は地域住民

の声を行政に届けるなど叫びま

すが、発言者は限られ言わぬ者

は一切言わない現状。要はどこ

から選ぶかではなく、誰を選ぶ

かではないかと思います。

★安きに流れれば道理を裏う

り、約束を実行した上で不都合

がなければ再度協議すればよく、

最初から契約を守らないのは信

義上やるされる事ではありません。

(中略)みんな、子供が

見ています。大人として約束を

守るべきではありませんか。

知らない人が読めばまるで議員

がこのことに関し合併協定を未

だに守ってなく、しかも最初か

ら守っていないかのような書き

ようです。結論からいえばこれは間違つ

た認識です。町行政を預かる最

高責任者が広報誌上で町民に誤

解を与える記述をするのは、そ

れこそ信義上許されないことで

はなかろうか。

歩かな損々



安藤朋生
茨城県

各地で猛威をふるった台風も、ここ茨城はひゅ～と簡単に通り過ぎ大きな被害はなかった。陸の孤島の真壁町には台風すらこないとぼやく母。地元を走るバスや電車は撤廃。自分で車を運転する者にとってタクシーは高いし、利用者は少ないのではないか。運転免許がある

も通勤時間1時間など答えようものなら、はいそこまでというから恐ろしい。ならば何分圈内が望ましいのだ? 選択肢が狭まりどんどん孤立していく田舎で折り合いをつけるのが難しい中、

島に住む在り方

自宅から通える距離に子供を置きたがる親もまた多い。

都内に住む娘は今年9月内定を頂くことが出来た。その際運転免許は必要ないと面接官に告

げられたという。事故などで仕事や大切なカメラマンの損失を防ぐ対策なのだそうだ。工場の人員補充を簡単に考えるのとは違うなあ。学歴に関係なく実力で携わりたい職業に就けた彼女が誇らしい。

夢や可能性を壊すような現実に立ち向かうのは簡単じゃないから、簡単なことから初めてほしい。憎むべきは田舎ではなく、楽しいと思う心を忘れてしまつた自分。いつもと違う日常を探しに何かを学んだり、それこそ島に行くのもいい。目標が出来たら後は実行あるのみ。歩こう。